

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

2012年度 活動報告

2012.4.1—2013.3.31



“お互いさま”と“一緒に”

東日本大震災を受けて始まった東北での活動も、2年以上が経ちました。被災地の現場で受け入れてくださった地元の方々をはじめ、ボランティアや物資のご提供、財政面でのサポートなど、本当に多くの皆様のご協力でここまで活動を続けていくことができました。心より御礼申し上げます。

この一年で、よく口にし、耳にしたのが“お互いさま”という言葉です。ハリケーン被害に見舞われたニューヨークでの緊急支援には石巻での被災体験を持つ萬代好伸さんが応援に駆けつけてくれました。思えば、東日本大震災の現場にも、兵庫や新潟からいち早く救援が来ていました。いずれも大災害を経験し、同時にたくさんの支援を受けた街です。こうやって恩返しがつながっていく姿に、改めて人の素晴らしさを教えてもらいました。

もうひとつは“一緒に”という言葉です。仮設住宅、仮設商店街、仮の町など、東北の皆さんは“仮”という文字に見え隠れする

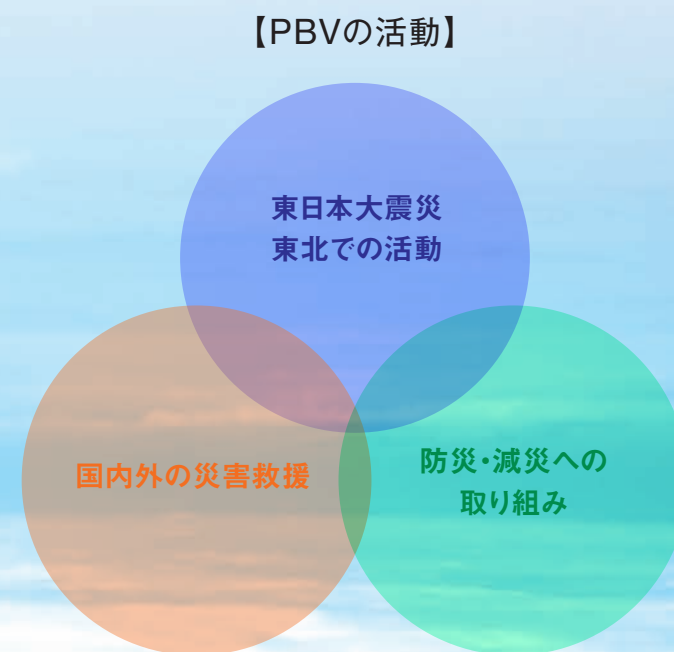
将来への不安を抱えています。目に見えない課題に対して、誰も正解を教えてくれない中、住民もボランティアも手探りの毎日です。だからこそ失敗したり悩んだりしてもいいから、立場の違いを越えて“一緒に”話し合い、進んでいく時間を大切にしようと思いがけきたつもりです。そこで生まれた新しい出会いやアイデアを具体的な形に変えていくことが、これからの挑戦です。

私たちには、これまでの災害で学んだ教訓をより良い未来につなげていく責任があると思っています。今後とも、PBVへのご協力をお願いするとともに、同じ未来を目指すパートナーとして共に進んでいきましょう。



ピースボート災害ボランティアセンター
代表理事 **山本 隆**

人こそが人を支援できるということ



東日本大震災 東北での活動

東日本大震災が発生すると、PBVではすぐさま現場へスタッフを派遣。宮城県石巻市・女川町でボランティアによる緊急支援を始めました。息の長い復旧・復興支援へと移り変わった現在も、地元の方々と協力して活動が続いています。また、原発事故による放射能への不安が続く福島では、子どもたちや若者を対象とした保養と国際教育プログラムなど、福島と世界をつなぐ活動を行っています。

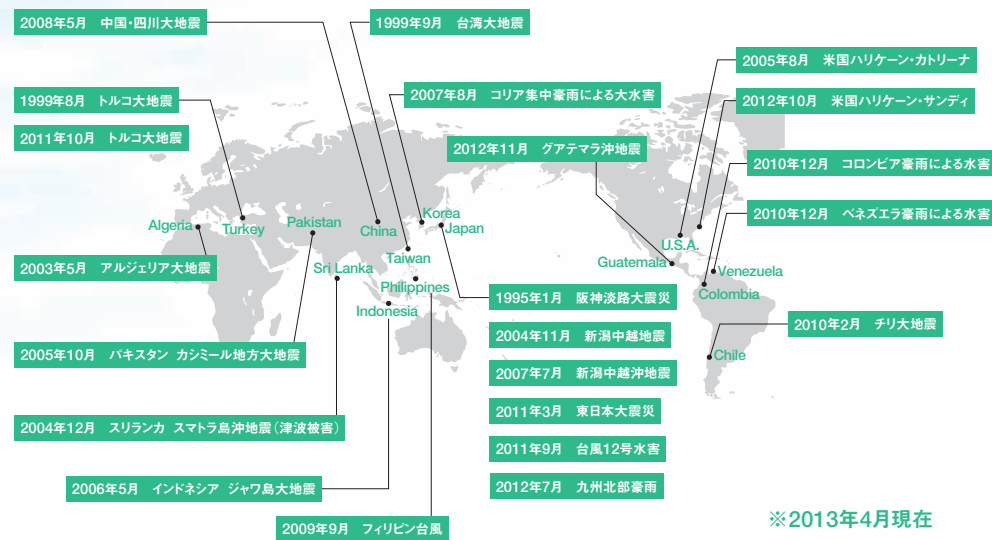
国内外的災害救援

ピースボートの災害救援は1995年の阪神・淡路大震災がきっかけ。以来、台湾、トルコでの大地震、ハリケーン・カトリナ（米国）など、世界各国で活動してきました。PBVを設立して以降も、日本各地の風水害や豪雪災害の被災地へボランティアを派遣して緊急支援を行うほか、国際ネットワークを活かした海外での災害救援も展開しています。

防災・減災への取り組み

高い技術力を誇る日本の「防災」は世界でもトップレベルと言われますが、その想定をも上回る巨大災害を経験した私たちは、「減災」への議論や準備を進めていく必要があるでしょう。将来の災害に備えるため、全国各地での災害ボランティア・トレーニングの実施や、行政と民間、国籍の違いを越えたネットワークの構築など、平時の取り組みを大切にしています。

【NGOピースボートと災害支援】



ピースボートは1983年以来、「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目的に80回以上の航海を行ってきたほか、世界各地での人道支援も展開しています。ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）は、東日本大震災を受けて立ち上げた一般社団法人で、ピースボートの「国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる」という想いを受け継いで、各地での支援活動を行っています。



NGOピースボートのホームページ <http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。



阪神淡路大震災
(1995年、神戸市長田区)
ピースボートでも約1,000名のボランティアとともに緊急支援を行った。「ボランティア元年」と呼ばれ、その後日本の災害支援活動の原点に。



スマトラ沖地震
(2004年、スリランカ)
M9.1という巨大地震により、複数の国で大津波が発生。スリランカ沿岸部の村へ浄水器やパソコンを届けるなどの支援を行った。



パキスタンカシミール地方大地震
(2005年、パキスタン)
支援の届きづらい冬の山岳部での被害。避難生活は過酷を極めた。防寒具やブルーシートの提供、仮設避難スペースづくりなどの支援を実施。

メッセージ

2011年3月11日。あの日から4日間、社員の安否を確認するために私は街中を歩き回っていました。そんな中でも、“諦める”という言葉は浮かんではきませんでした。むしろ、一人ではできないからこそ、外からの力を借りて復興していくのだと。

私は今、中心市街地の再開発、再活性化に取り組んでいます。多様な人たちが暮らしやすく、ステキだと思える、心の充足を抱けるような街を作っていきたいと思っています。良い意味で違う価値観を持っている若いボランティアの人たちの発想が、地元民の視野を広げてくれています。そして何よりも、年代や性別、出自を越えて本音で議論できる関係性が、楽しくて仕方ないのです。

ピースボートは、これからも東北以外の場所で活動することもあると思います。石巻は、元々津波が来る場所であると言われていたにもかかわらず、「備え」が脆弱だったことで大切な人を失いました。皆さんは、こういった私たちの経験も活かして活動を展開していったほしいと願っています。

震災は、一方で人とのつながりが大きな力につながっていくことを教えてくれました。“復興”には、まだまだ長い道のりが残っていますが、「夢を持ち続けること」を忘れずに現場で汗を流し続けていきたいと思っています。そして、一緒に汗を流してくれる人たちを募集しています。

コンパクトシティのまき・街なか創生協議会 幹事長
株式会社街づくりまんばん 副社長

尾形和昭さん



2012年度 活動カレンダー

【プロジェクトの色分け】

- 東北での活動
- 国内外の災害救援
- 防災・減災への取り組み



前年度から継続	漁業・浜支援、おらほの“浜”体験ボランティア 「仮設きずな新聞」の発行・配付(仮設住宅入居者支援) お茶っこ、ベンチ・花壇設置(仮設住宅入居者支援) 畑づくり(仮設住宅入居者支援) 災害ボランティア・リーダートレーニング
	おらほの“まちづくり”体験ボランティア 開催 きぼうのかね商店街の仮設店舗CMづくり 開始 ドキュメンタリー「FUKUSHIMA NOW」製作協力 ウィーラースクールの自転車教室を開催
	4月
	つくば市の竜巻被害、現地調査 『石巻通心』全6号が完成 石巻魅力発信プロジェクト 開始 コンテナに大漁旗を描こう! プロジェクト 開始
	5月
6月	「おながわコンテナ村商店街」店舗拡張サポートが完了 「ピースポートセンターいしのまき」オープン ボランティア宿泊所「カスカファッション」を開所 舞台「イシノマキにいた時間」石巻公演に協力 福島子どもプロジェクト「登ろう! 日本一高い富士山へ」に協力 石巻市総合防災訓練に参加 商店街の一員として「第89回石巻川開き祭り」に参加(出店など) 九州北部豪雨 緊急支援を開始 福島子どもプロジェクト「福島×ベネズエラ×ロサンゼルス音楽交流プログラム」実施 畑づくり支援が終了
	7月
	九州北部豪雨 緊急支援を終了 加藤登紀子&鎌田實ふくしま・うた語りスペシャル 「福島×ベネズエラ音楽交流プロジェクト帰国コンサート」開催 地球一周・福島大学ユースプロジェクトが出発 記者ボランティアの公募を開始
	8月
	防災の日・特別イベントを開催 「災害ボランティア検定」開始 東京からのボランティアバスを終了、石巻での直接受け入れ開始 「災害ボランティア入門」開始 石巻市立住吉幼稚園の園庭に植林
9月	新カリキュラムでの「リーダートレーニング」が開始 ミュージカル「A COMMON BEAT」オーディション&練習開始 「民間防災および被災地支援ネットワーク」キックオフイベント実施 国際人道基準「スフィア・プロジェクト」トレーナー研修に参加(韓国)
	10月
	ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」の緊急支援を開始 中米グアテマラ沖地震 募金活動 「イマ、ココ プロジェクト。」開始 災害ボランティアトレーニング・スキルアップとして「ケーススタディ」を実施 災害ボランティアトレーニング・スキルアップとして「多文化共生と減災を考える町歩き」を実施 定期実施に加え、「災害ボランティア入門」の出張セミナーを開始 石巻で「災害ボランティア入門」を実施
	11月
	PBVサポート会員を対象に、石巻視察ツアーを実施 ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」の第一期支援終了 石巻で、ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」の活動報告会 ミュージカル「A COMMON BEAT」宮城公演 ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」への第二期支援を開始
12月	石巻市NPO支援オフィス開設10周年記念フォーラムに登壇 「コンテナに大漁旗を描こう!」プロジェクトが終了 春休み期間の仮設住宅入居者支援「文通ボランティア」実施 「3・9(サンキュー)レターキャンペーン」に協力 「第80回ピースポート 地球一周の船旅」での石巻港寄港を決定 「第8回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加 オーストラリアで福島原発事故被災者によるスピーキングツアーの実施 「311東日本大震災 市民のつどい—Peace On Earth—」にブース出展・ステージ登壇 GNDR(地球市民社会の防災ネットワーク)に参加(オランダ) 福島子どもプロジェクト「オーストラリアで学ぶ“持続可能な社会”とは」実施 実践ボランティアトレーニング・スキルアップとして「防災トレーニングキャンプ」を実施
	1月
	2月
	3月

東日本大震災 東北での活動[石巻・女川]

石巻市・女川町の被害状況とPBVのボランティア

三陸沖太平洋沿岸に位置する宮城県石巻市、女川町は、東日本大震災で大きな被害を受けました。1年目の緊急・復旧支援では、在宅避難者など法律の枠内でカバーできない被災者をサポートするため、大規模なボランティアの組織化に力を注ぎました。復興支援の初期段階にあたる2年目は、高齢化や人口流出といった震災前からの課題にも向き合いながら活動を展開してきました。



石巻市被害状況 (2013年4月1日時点／石巻市発表)

人口	150,677人(震災前:162,822人*1)
死者	3,155人
行方不明者	444人
建物被害	53,742棟 (全壊22,357／半壊11,021棟／一部損壊20,364棟)
仮設住宅数	134団地 7,153戸

(*1)2011年2月末時点、石巻市発表

女川町被害状況 (2013年3月31日時点／女川町発表)

人口	7,885人(震災前:10,014人*2)
死者	821人
行方不明者	6人
建物被害	3,934棟 (全壊2,924棟／半壊347棟／一部損壊663棟)
仮設住宅数	30団地 1,285戸

(*2)2011年3月11日時点、女川町発表

2年間の総ボランティア数

日別延べ総活動人数 **82,564人**
・派遣人数 13,816人(全国47都道府県)
・インターナショナル・ボランティア 3,471人(56の国と地域)
・企業・団体ボランティア・コーディネート 8,011人(102団体)

主な実施プロジェクト

緊急支援	復旧支援	復興支援
物資配付	泥出し&清掃	仮設住宅入居者支援
炊き出し	漁業・浜支援	
避難所サポート	仮設住宅物資運び入れ	まちづくり・情報発信
入浴支援	地場産業の再開サポート	地元との協働プロジェクト

※石巻市・女川町での活動は、地元行政や社会福祉協議会、NGO/NPO、住民グループと協力しながら続けています。(p.15参照)

まちと人がつながる場、“やりたい”をカタチにする場

ピースポートセンターいしのまき

住民の方々とボランティアと一緒に話し合い、交流できるソーシャル・コミュニティ・スペースを目指してオープンした「ピースポートセンターいしのまき」。2013年3月末までの約9ヶ月間で、総来訪者数は6,000人を越えました。地域の皆さんにとっては子ども向けの各種教室や音楽ライブのイベント施設として、県外から訪れる人にとっては情報が手に入る窓口として、そして時には石巻の課題やこれからについて立場の違いを越えて議論できる場としてたくさんの方々に活用していただきました。



石巻でのボランティアでも協力したNPO法人コモンビートと共催した、ミュージカル「A COMMON BEAT」の宮城公演。オーディションから毎日の練習まで、石巻市民ら100人が100日をかけて手づくりで準備した。当日は、1,000人を越える超満員の会場で、元気と感動を生んだステージとなった。



総来訪者数 **6,802人**(1日平均27人)

実施イベント数 **63回**
(イベントへの来訪者 2,700人)

- ・川開き祭り 子ども広場
- ・ベビー&キッズマッサージ
- ・ソウル・フラワー・ユニオン音楽ライブ
- ・パソコン教室・英会話教室
- ・災害ボランティア入門 など



浜で暮らす一週間。牡鹿半島で漁業を体験するボランティア イマ、ココ プロジェクト。

全国第2位の生産量を誇ってきた牡蠣をはじめ、日本の台所を支えてきた石巻市牡鹿半島の漁業。大事に育てていた養殖も津波にさらわれ、残念ながら再開を断念した漁師もいます。繁忙期の担い手不足という第一次産業の課題に向き合うためにも、被災者とボランティアという関係だけでない新しい人の流れが必要でした。その流れを長く続けるためにも「参加者は好奇心と労働力を、漁師は生活環境と食事を」と、お互いが求めるものを提供し合うシステムが「イマ、ココ プロジェクト。」の特徴です。被災地支援という枠を越えて、“面白そう”“学べる”という魅力から人が集まるボランティアモデルを目指して実施しています。



※「イマ、ココ プロジェクト。」の前身となった「おらはの浜体験」(2012年2月～7月実施)には、160人(日別総活動人数320人)のボランティアが参加しました。

参加者数(ボランティア)	113人(日別総活動人数 656人)
受け入れ先	7地区 (狐崎浜、給分浜、鰐浦、鹿立浜、福貴浦浜、渡波祝田、雄勝町)
実施期間	2012年11月～ 継続中

アイデアとアートで生活に彩りを! コンテナに大漁旗を描こう!



津波で倉庫が流された後、多くの漁師が漁具保管に使っているのは業務用のコンテナ。「錆びてっからペンキ塗ってくんねえかなあ」という一言から始まったプロジェクトは、約10ヶ月で多くの作品を生み出しました。依頼主の希望のデザインを聞くとところから、錆びを落とし、色を入れるまで、すべてが手づくりの大漁旗です。殺風景になってしまった浜の風景に、新しい彩りが生まれたことで、「宝物ができた」と言うくださることもありました。外からのアイデアが上手く活きたユニークな活動になりました。

実施数	コンテナ 37個 (9地区:小網倉浜、福貴浦浜、給分浜、寄磯浜、谷川浜、竹浜、泊浜、鹿立浜、大原浜)
実施期間	2012年5月～2013年2月



※女川アートギルドには、すべてのデザイン・下絵にご協力いただきました。

再開した商店街や店舗を後押し。記者ボランティアが活躍 魅力発信プロジェクト



ボランティアにできる支援は、「ひと・もの・かね」だけではありません。風化を防ぎ、東北のいまを伝える「情報」も大切な活動のひとつだと言えるでしょう。仮設商店街や個人店舗は、地域住民の日常生活と地元雇用を支える存在ですが、震災後の人口流出など、再開後も営業を続けるためには様々な課題が残ります。記者ボランティアが一つひとつ取材し、インターネットで発信するのは、そういった逆境のなか努力する街と人の姿。パソコン作業に慣れた企業ボランティアの皆さんにもご協力いただき、店舗のCMを製作しています。

製作CM数	61作品(女川町2商店街53店舗、石巻市8店舗)
	https://www.facebook.com/PBV.Attractivelshinomaki http://www.youtube.com/user/PBVishinomaki?feature=
実施期間	2012年5月～ 継続中

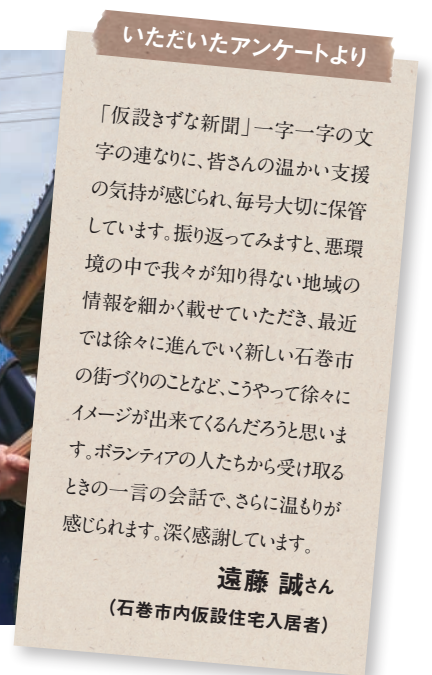
目に見えないニーズ。一つひとつの「声」を大切に 仮設きずな新聞

今年度は隔週で発行した「仮設きずな新聞」は、昨年度からの合計で第50号を数えます。暮らしの役立つ情報や再開した店舗の紹介、石巻のイベントレポートなど、記者ボランティアが取材した記事をまとめたA3用紙・両面の小さな紙面ですが、年度末実施のアンケートには「別の団地の様子が分かる」「かんたん料理のレシピが嬉しい」といった仮設住宅に暮らすからこそ必要とされる情報への評価がありました。これからもマスコミや市報では伝えきれないニーズに応える新聞でありたいと思っています。

発行部数	25号～50号 (各5,200部、計135,200部)
配付地域	石巻市内90団地など
実施期間	2011年10月～ 継続中



※「仮設きずな新聞」は2013年3月で一旦休刊しましたが、リクエストが多いことから2013年6月からリニューアルして再刊することになりました。
※バックナンバーはホームページ(<http://pbv.or.jp/shinomaki-psen/newspaper/>)をご覧ください。



自慢の野菜ができました! 畑づくり



抽選で入居が決まり、顔を知らない者同士が暮らす中心部の団地と違い、元々の近隣住民がまとまって入居している雄勝町や牡鹿半島の仮設住宅では、コミュニティづくりよりも日々の生活再建が優先でした。新鮮な海の幸と野菜が並んでいた震災前の食卓には、各家庭の畑(家庭菜園)の存在がありました。野菜を育てる楽しみは各ご家庭に任せ、土の入れ替えや動物よけの網の設置といった環境整備がボランティアの作業。住民が屋外で体を動かす機会になったり、新しい作物に挑戦したりと、生活に張り合いが出るきっかけにもなりました。

畑(家庭菜園)設置数	25地区64件
実施期間	実施期間 2011年11月～2012年7月 ※全期間を通して、27地区134件(個人利用105件、プランター27件、共同利用2件)を設置しました。
	※本庁や河南エリアなど中心部の団地では、コミュニティづくりの一環として、ベンチ116個、お花用のプランター441個を設置しました。

“楽しい”から参加する集会所へ お茶っこやイベント



「お茶っこ」とは近所の方々と漬け物や煎餅でお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ東北流のお茶会のこと。期限付きの仮設団地とはいえ、新しくコミュニティと一緒に生活を始める住民同士の交流の場として、本庁エリアなどの市街地を中心に実施してきました。時には、男性も参加しやすい日曜大工やコミュニティ麻雀をしてみたり、仮設住宅の周辺に暮らす住民の方々にも参加を呼びかけたり。住民とボランティア一人ひとりが深くつながりを持てるようにアレンジした「文通ボランティア」の実施も含め、工夫を続けながらの1年でした。

実施回数	939回
参加住民数	石巻市内70団地のべ7,150人
実施期間	2011年11月～2013年3月 ※全期間を通して、70団地を対象に1,270回実施、のべ9,383人の住民の方々に参加していただきました。

福島子どもプロジェクト2012・夏

福島×ベネズエラ×ロサンゼルス 音楽交流プログラム

「屋外で十分に体を動かせない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など、震災と原発事故に見舞われた福島県の子供たちは、いまだ厳しい生活環境を余儀なくされています。そんな子供たちに“夢と健康を!”と続けてきた福島子どもプロジェクトですが、この夏は“音楽”という新たなテーマが加わりました。福島とベネズエラの若者たちに言葉と国境の壁を越えた友情が芽生えたとともに、プロジェクトを裏方で支えてくれたボランティアや応援団、故郷を離れて避難生活を送る方々にも希望の音楽を届けることができました。

加藤登紀子さん、鎌田實さんのお二人、そしてNTT東日本東京吹奏楽団の皆さんも共演してくださった帰国コンサート。



プログラム概要

参加メンバー	旅の期間:2012年7月31日～8月18日
	【福島側】FTVジュニアオーケストラの高校生7名
	【ベネズエラ側】シモン・ボリバル音楽財団「エル・システマ」の若者8名
	【ロサンゼルス】YOLA (Youth Orchestra LA) ※現地プログラム参加

実施プログラム	ロサンゼルスでの音楽教育視察・演奏会
	メキシコで地元アンサンブルとの合同コンサート
	ピースボート洋上での国際交流・語学教室・音楽練習・演奏会
	東京・津田ホールでの帰国コンサート など

呼びかけ人:加藤登紀子(歌手)／鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)／田部井淳子(登山家)／田中優(環境活動家)／香山リカ(精神科医)

参加した子どもたちから

言葉を使うとあまりうまくコミュニケーションをとれないけど、音楽で心が通じ合った。
河野翼さん(トロンボーン)

ベネズエラの人々と一緒にコンサートを作り上げ、船の参加者にも、日本で待っていてくれた人々にも喜んでもらえたことに感動を覚えています。
菊地美穂さん(ヴァイオリン)

一番インパクトがあったのは、広島・長崎の歴史、そして福島原発事故後の放射能の影響。同世代の友達として、いつかまた一緒に演奏できることを楽しみにしています。
ヘスス・グスマンさん(ヴァイオリン)

もしいつの日か、オーケストラ人生で一番印象に残っていることを質問されたら、私はこのプロジェクトに参加したことを真っ先に伝えるでしょう。
レブサイ・フェルナンデスさん(ピオラ)

プロジェクト呼びかけ人から



チュエルノブイリでは、ヨーロッパ各地で保養のプロジェクトがありました。絶望の中、子どもたちの外国での経験が、何年も経ったいまのペラルーネを支える「宝物」になったそうです。大きな視野で、未来に向かったビジョンで子どもたちを守りたい、そう思っています。悲しみを乗り越えるためにも、私たちは未来を「創る」選択をしていきたいと思います。大丈夫、命はそんなに弱いじゃない。福島の子どもたちを、私たちの未来を、みんなで守っていきましょう。

加藤登紀子(歌手)



ぼくは、子どもの健康を守るには「健診」「放射能の見える化」「保養」が大事だと思ってきた。外国をみるという夢と、外国に友達をつくるという夢をかなえさせてあげたいと思って、このプロジェクトの応援団を引き受けた。この旅は「保養」とどまらない。元気に帰国した子どもたちを迎え、家族も元気になったという。とてもいいことだ。これからも、あたたかさの連鎖が続いてほしいと思っている。

鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)

福島子どもプロジェクト2013・春

オーストラリアでのホームステイ&環境教育体験



プログラム概要

実施内容	旅の期間:2013年3月23日～4月1日
	参加メンバー:南相馬市内の中学生12名
	プログラム:現地中学・高校生との国際交流、農場や動物園での自然体験、アウトドア・スポーツ体験、パーマカルチャーや市民風力発電の見学 など



春休みには、南相馬市の中学生をオーストラリアに招待しました。ホームステイや学校訪問による国際交流に加え、豊かな大自然に触れ、NGO・コミュニティが取り組む自然エネルギーを学ぶ中で、福島や日

本が進むべき未来を考えるきっかけになりました。出発前からオリエンテーションを行い、帰国後はそれぞれの学校で報告会を開くなど、広がり意識したプロジェクトでした。

参加した子どもたちから

「自分たちが自然の物を食べたのなら、それを自然に戻さなければ食べてはいけない」という言葉が今でも心に残っています。人間も自然の中の一部なんだということに気がつきました。
今野紗希さん(鹿島中学校2年)

オーストラリアに行って変わったことは二つあります。一つめは、持続可能な取り組みを学び、水の無駄遣いや電気の無駄遣いなど資源の大切さがよくわかりました。二つめは、英語力がすごく身についたことです。英語で会話ができて自信を持てるようになり嬉しかったです。
渡部将大さん(原町第一中学校2年)

※当プロジェクトは、「南相馬こどものつばき」の一環として協力実施しました。
※オーストラリアでは、Japanese for Peace, Australian Conservation Foundation, FoE Australia, Medical Association for the Prevention of Warを中心に受け入れ協力をしていただきました。

フクシマ・アウェアネス・キャンペーン

「ふくしまの声」を世界に

高度な技術を持つ日本ですら防ぐことができなかった原発災害。二度と同じ被害を繰り返さないためにも、福島の教訓は各国の進むべき未来に大きな影響を持つでしょう。「当事者の口からその経験を学びたい」と、いま世界中から届くメッセージがそのことを物語っています。この1年は、福島大学災害復興研究所との共同で行う「福島大学ユースプロジェクト」をはじめ、英語でのドキュメンタリー『FUKUSHIMA NOW』への製作協力、「リオ+20(国連持続可能な開発会議)」やオーストラリアでのスピーキングツアーなど、福島の方々とともに積極的に海外での証言に出かけました。

キャンペーン実施国 **12カ国**
(ブラジル、ベトナム、イタリア、フランス、スペイン、メキシコ、トルコ、ギリシャ、ジャマイカ、インド、韓国、オーストラリア)

※福島大学ユースプロジェクトは、地球一周と日韓共催のピースボートクルーズを通じて実施しました。(2012年8月～12月)
※「福島子どもプロジェクト」をはじめ、福島への支援活動はピースボート事務局との共同で実施しています。



ブラジル・リオデジャネイロで開催された国際会議「リオ+20」にて(2012年6月)

地域のボランティアと派遣したPBVボランティア・リーダーが協働

九州北部豪雨災害 緊急支援



大分県竹田市被害状況

人口	24,648人 (10,548世帯)
死者	2人
全壊・半壊家屋数	41棟
浸水(床上・床下)家屋数	210棟以上

※竹田市発表

熊本県阿蘇市被害状況

人口	28,444人 (10,100世帯)
死者	21人
全壊・半壊家屋数	1,127棟
浸水(床上・床下)家屋数	4,230棟

※熊本県、阿蘇市発表



2012年7月、集中豪雨の被害は、九州北部の広範囲にわたっていました。先遣スタッフを派遣し、すぐさま緊急支援を決定。約1ヶ月間、土砂のかき出し・清掃活動に携わりました。発災後に設置された現地災害ボランティアセンター(社会福祉協議会が運営)には、日替わりで地域ボランティアが大勢集まるものの、ほとんどが初めての経験。PBVの「リーダートレーニング」修了者など、ボランティア・リーダーが地域ボランティアとチームを組むことで、支援全体が底上げされる成果もありました。

実施期間	2012年7月15日～8月9日
活動場所	大分県竹田市、熊本県阿蘇市
ボランティア数	派遣人数 41人 (日別総活動人数212人)
活動内容	土砂のかき出し・清掃実施 23件 災害ボランティアセンターの運営サポート

メッセージ



私自身、ボランティアコーディネーターとしていくつかの災害現場の応援に入ったことがあります。そこで「ありがとう」と言われても、「本当に役に立ったのかな?」と感ずることもありました。今回、逆に全国からのボランティアを受け入れる立場になって、「人が応援に来てくれるだけでも本当に嬉しいんだ」と気付きました。地元の人たちの底力、人の支援のありがたみを実感しました。

水野 匡也さん(竹田市社会福祉協議会 久住支所長)



東北ではPBVのチームでの活動が中心でしたが、今回は地元の個人ボランティアの方たちとの共同作業でした。初めて災害ボランティアに参加する人も多く、作業場における安全への配慮や声かけ、妥当な人数の割り振りなど、リーダートレーニングで学んだ考え方が役に立ちました。活動が一段落してからは、現場だけでなく事務処理のお手伝いもしました。今後も、この経験を活かしていきたいです。

谷川 孝子さん(長崎在住、リーダートレーニング修了者、現地ボランティアに参加)

日本のボランティア・コーディネートの経験を応用

米国ニューヨーク ハリケーン・サンディ被災地支援



米国での被害状況

ハリケーン規模	カテゴリー2
被災地域	ニューヨーク州、ニュージャージー州など米国東部
死者	100人超
建物被害	30万棟以上(ニューヨーク州)

※ニューヨーク市、米国国内報道発表など



2012年10月、北中米カリブ諸国を襲ったハリケーン・サンディへの緊急支援として、米国ニューヨークにボランティアを派遣しました。経済格差が支援の格差にも影響を与えていました。現地事情に詳しい地域のNGOと協力し、第一期は主に物資配付やニーズ調査、清掃活動などの直接支援、第二期は中長期にわたってボランティア・コーディネートをサポート。日本で培った災害ボランティアのノウハウが活かされたほか、石巻市からのボランティアも合流し、東日本大震災への支援に恩返しすることもできました。

実施期間	第一期:2012年11月12日～12月16日 第二期:2013年1月21日～4月15日
活動場所	ニューヨーク市スタテンアイランド、 ロッカウェイ地区など
活動内容	救援物資の配付やニーズ調査、被災家屋の清掃・ カビ対策、現地ボランティアのコーディネーション

※ニューヨークでは、NGO「WCC(World Cares Center)」を現地パートナーとして、協力して活動しました。

メッセージ



私たちは、サンディの被害を受けて2つのボランティアセンターを設置し、5,000人を越える被災者へ物資配布、家屋清掃といった生活再建サポートを行ってきました。日替わりのボランティアが多い中、毎日継続して動けるピースボートチームには、膨大な資料の整理から、日々のスケジューリングや作業現場の指導まで、様々な協力をお願いしました。ニューヨークでの活動もまだ続いているが、これからも良きパートナーとして協力していきたいと思っています。

リサ・オーロフさん(ニューヨークNGO「WCC」代表)



自分は、全世界の皆さんから支援してもらって立ち上がった身です。被災地から被災地へできることがあると思って、「困ったときはお互いさま。あなたは一人じゃないよ」と伝えたくて、ボランティアに応募しました。「日本から、石巻から来たよ」という言葉に感激してくれた方もいます。石巻の人間として、支援に参加できて本当に良かったと思っています。

萬代好伸さん(石巻市出身、第一期ボランティアに参加)

グアテマラ地震 緊急支援募金

2012年11月、中米グアテマラでマグニチュード(M)7.4の地震が発生し、40名以上が犠牲になるなどの大きな被害が生まれました。日本国内ではほとんど報道されませんでしたが、ピースボートの船旅がグア

テマラ寄港後の出来事だったこともあり、クルーズ船内で募金を呼びかけました。集まった支援金5,299ドルは現地パートナーであるNGO「CEIBA」に送り、家屋修繕費などに充てられました。

ボランティアが担うのは「減災」 平時からの取り組みが、発災後の被害を軽減する

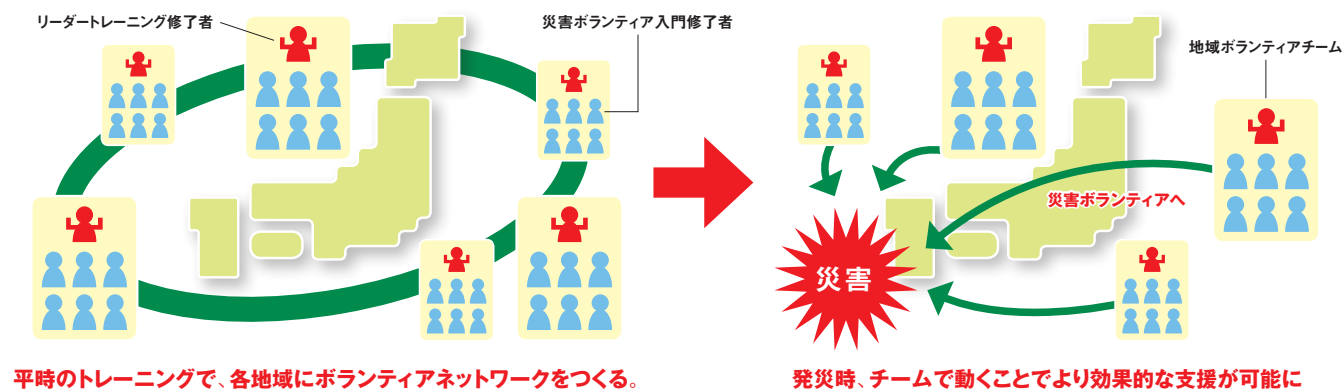
「防災」が被害そのものの発生を抑える取り組みであるのに対して、「減災」とは発生した被害を最小限にするための取り組みです。度重なる災害を乗り越えてきた日本は、耐震技術などの面では世界から「防災大国」と呼ばれる水準にありますが、東日本大震災ではそれを上回る災害に見舞われました。災害ボランティアは、発災後の応急対応や復旧・復興支援に携わる、まさに「減災」を担う存在。平時から人材育成に努め、いざという時に動ける仕組みやネットワークを構築しておくことが必要です。



ボランティアによる減災のセーフティーネット

私たちが目指しているのは、発災時には「地域で自分たちの身を守る“自助”」と、「地域を越えて助け合う“共助”」とが組み合わさった災害ボランティアの全国ネットワークです。長く続いてきた各市町村の自主防災組織が“自助”を支えています、その対応能力を越える大災害で

は、全国から応援が駆けつける“共助”としてのボランティアの存在が役立ちます。さらに、ボランティア一人ひとりが最低限の知識と心構えを持ち、個人ではなくチームで動くことができれば、その力はさらに大きなものになるでしょう。



企業CSRとNGO/NPOの連携 民間防災および被災地支援ネットワーク

社員の東北ボランティアを積極的に進めたり、専門性を持ったプロボノの派遣を継続していたりと、東日本大震災を受けて企業ボランティアは大きく動き出しました。2012年10月に発足し、これまでに約80社の担当者らが参加する「民間防災および被災地ネットワーク」(PBVは事務局の一員)の会議では、発災時のBCP(事業継続計画)や各企業の特徴を活かした緊急支援の提案などをまとめた手引きを作成しています。企業とNGO/NPOがお互いを理解する「連携」から、目的を共有して活動する「協働」のモデルが生まれています。



ひとを助ける。自分を守る。

災害ボランティア・トレーニング

CWS JAPAN actalliance
※災害ボランティア・トレーニングは、CWS Japanの助成で実施しています。

災害ボランティア入門[セミナー形式／3.5時間]

東日本大震災の発災当初、「ボランティアは時期尚早」と言われた理由のひとつに、多くの人が「私が参加しても何ができるかわからないし、迷惑をかけてしまうのでは…」という戸惑い

を感じていたことが挙げられます。災害ボランティア活動を全国的に底上げするには、防災・減災を学べる場所を増やすべきと、積極的に各地へ出張してセミナーを行いました。

実施期間	2012年9月～ 継続中
実施回数	38回(定期開催30回、出張セミナー8回)
実施場所	全国8都道府県で定期開催 (北海道、東京、宮城、大阪、愛知、神奈川、福岡、京都)
受講者数	672人

※プログラムの内容や会場提供など、モンベール、家政学会にもご協力いただいております。



※徳島県美波町・石井町、宮城県大崎市の社会福祉協議会、石巻専修大学では出張セミナーを実施したほか、東京・新宿区では外国人向けのセミナーも実施しました。

災害ボランティア検定[インターネット検定／45分]

実施期間	2012年9月～ 継続中
受験者数	352人

※当検定は、イー・コミュニケーションズが実施する「絆検定」の一環として、システム開発にもご協力いただいております。

「災害ボランティア入門」の確認テストとしても活用できるほか、セミナー参加が難しい人にも災害支援の基礎知識を身に付けてもらえるよう、パソコンのインターネットで受けられる検定システムを始めました。準備段階や被災地での生活、活動中、帰宅後など、実際にボランティアに参加するにあたっての具体例を出題しています。



リーダートレーニング[講座・ワークショップ／2日間]

昨年度から続けてきた「リーダートレーニング」は、2012年6月まで石巻市でのボランティア実践を含む約1週間の日程で実施しました。その後、カリキュラムを2日間に再編、開催地域を

広げました。すでにトレーニング修了者がPBVのプロジェクトだけでなく、つくば市での竜巻被害、九州北部豪雨災害の緊急支援などの現場に駆けつけ、ボランティアに参加しました。

実施期間	2011年11月～ 継続中	実施回数	13回	修了者数	139人
------	---------------	------	-----	------	------

※2012年10月からは新カリキュラムで実施しています。

スキルアップ[テーマ別]

被災地での災害支援には多種多様な活動があり、ボランティアはどんな現場でも臨機応変に対応する心がけが求められます。そのためには平時から様々なテーマに触れ、想像力と具体的なスキルを磨いておくことが有効です。それぞれのテーマで専門性を持つ他団体の講習やトレーニング、地域の防災訓練への参加を促しているほか、合宿形式のキャンプなども主催しました。これまで活動経験のない分野を積極的に取り入れたことで、私たち自身にとっても多くの学びにつながりました。



「防災トレーニングキャンプ」の様子
(2013年3月)



東京都新宿区での「防災まち歩き」
(2012年11月)

※スキルアップは、日本ボランティアコーディネーター協会、東日本大震災女性支援ネットワーク、WMA JAPANと相互協力で行っているほか、イベントごとに多くの団体にご協力いただきました。

防災・減災への取り組み

世界の防災・減災へ

「ポスト兵庫行動枠組」に向けて

2015年、第3回国連防災世界会議の仙台開催が決まり、各地でその準備会が始まっています。国際的な防災・減災の指標「兵庫行動枠組2005-2015」を振り返るとともに、この10年で被災した各国の経験が共有されることになります。東日本大震災では、私たち市民社会も多くの教訓を得ました。PBVではその教訓を伝えるため、2012年3月にはオランダでの「GNDR（地球市民社会の防災ネットワーク）」、5月には「GPDRR（防災グローバルプラットフォーム会合）」に参加するなど、国際ネットワークを広める活動に取り組んでいます。

人道支援の国際基準

スフィア・プロジェクト／HAPスタンダード

東日本大震災で、日本は各国から多くの支援を受ける立場になりましたが、国連機関を含めた海外との協力体制に課題も残りました。言語の壁もありますが、支援内容の検討方法が各国の支援団体が用いる基準と違っていたことが影響していました。現在、人道支援の国際基準として主に使われているのは、「スフィア・プロジェクト」と「HAPスタンダード」。PBVはその基準を普及するNGOワーキングチームの一員として、研修トレーナーを務めるなどの活動を行いました。

将来の巨大災害に備える

南海トラフ



3月、静岡で「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加しました。南海トラフ・東海地震を想定した行政と市民、ボランティアによる合同訓練で、2005年から毎年実施されてきました。大津波など地域の災害対応能力を上回る被害に対しても、地元の仕組みと外部からの支援がスムーズに協力して対応できるようにと、訓練前の内容づくりから関わりました。

講演・イベント

東日本大震災の被災地の最新状況を伝え、広く防災・減災への意識を高めるため、積極的に講演やシンポジウムに参加、ボランティアによるイベントブース出展などを行いました。

※右表は災害ボランティアトレーニング、ピースポートセンターいしのまきでの活動を除いています。



多文化社会での災害対応に向けて

外国人向けの災害ボランティア・トレーニング



この先、少子高齢化の影響で災害時要援護者の割合が増え、災害ボランティアを担ってきた若者・現役世代が不足します。その時、日本の災害対応の仕組みは耐えられるでしょうか。災害における外国人はこれまで災害弱者として語られてきましたが、東北で活躍した多国籍ボランティアの存在が証明するように、200万人以上の在住外国人との連携・協働はお互いにとって大きな支えです。外国人との防災まち歩きやビルマ語でのセミナーの実施、防災マニュアルのスペイン語翻訳など、多文化社会での災害支援のあり方を模索し始めています。

首都直下地震



コミュニティのつながりが弱く、インフラも複雑な大都市での巨大災害。日中と夜間では、そこにいる人数も空間もまったく違います。見直しの議論も始まっているとはいえ、首都直下地震が発生した場合、現在の地域防災計画ではカバーできない課題がたくさんあります。行政だけに任せるのではなく、自らそうした状況を分析しながら、いち早く初動対応ができるよう準備を始めています。

講演・授業・研修講師など	46回
各種イベントへのブース出展	8回
報告会・イベントの主催・共催	7回

2012年度財務諸表

貸借対照表	
【資産の部】	
現金預金	89,970,317
商品	56,870
仮払金	300,000
前払費用	18,880
未収入金	68,285
流動資産合計	90,414,352
その他固定資産 計	1,034,339
資産合計	91,448,691
【負債の部】	
未払金	2,704,959
前受金	7,652,147
預り金	571,896
未払法人税等	70,000
流動負債合計	10,999,002
正味財産合計	80,449,689

メディアでの紹介

【テレビ】NHKニュース×5回／NHK「あさイチ」×2回／NHK「おはよう日本」／NHK仙台放送局「てれまさむね」／NHK北海道クロスアップスペシャル／TBSテレビ「Nスタ」×2回／TBSニュース／TBS-BSニュース／テレビ朝日「ANNニュース」／朝日ニュースター「ニュースの深層」／TBC東北放送「Nスタみやぎ」／宮城テレビ「OH!バンデス」／東日本放送「突撃!ナマイキTV」／ミヤギテレビ「復興の途上で・・・～震災2年目の記録～」／福島テレビ「サタふく」／TOKYO MX TV「チェックタイム」／NY1（米国）／Channel News Asia（シンガポール）／UTB（米国）／その他ケーブルテレビなど
【新聞】朝日新聞×4回／朝日新聞GLOBE／読売新聞×4回／毎日新聞×4回／共同通信×2回／河北新報×10回／石巻かほく×7回／石巻日新聞×2回／石巻経済新聞／福島民友×2回／長野日報×3／神奈川新聞×2回／新潟日報／京都新聞／山梨日新聞／日刊自動車新聞／The

ご協力いただいた企業・団体・大使館一覧（団体名は略称表記）

アースデイ東京／青山学院大学ボランティア・ステーション／イー・コミュニケーションズ／イシン・ホテルズ・グループ／一布会／伊藤忠丸紅鉄鋼／ウィメンズアクションネットワーク／ウィーラースクールジャパン／浦和学院高校／エル・システマジャパン／円空学会／オーストラリア大使館／オンザロード／かながわ東日本大震災ボランティアステーション／カフェスロー／環境エネルギー政策研究所／キッズドア／キャンパー／共住憩／熊本県浄土真宗青年有志の会／久米繊維工業／くりらじ／グリーン・アクション／グリーンピース・ジャパン／ゲットユニバーサル／月刊ソトコ／原子力資料情報室／国際協力NGOセンター／コートロー音楽事務所／コスモスバス／小鳥の森ゴルフパーク／コモンビート／サービスグラント／再春館製菓所／サノフィ／「さようなら原発」一千万人署名市民の会／ジ・ジ・企画／シェアハビネス倶楽部／四万十塾／ジャスト・ギビング・ジャパン／ジャパングレイス／シャブラニール＝市民による海外協力の会／首都圏反原発連合／新宿区社会福祉協議会／しんじゅく多文化共生プラザ／信頼資本財団／伸和エージェンシー／スペインレストラン「イレーネ」／セブテニー・ベンチャーズ／ソウルフラーワ－震災基金／大成建設／大和ハウス工業関東地区協会の会神奈川グループ青年部会／たすけ隊大阪／チェーンリングプロジェクトforキッズ／地球サミット2012 Japan／秩父消防本部／中京大学社会科学研究所／中部産政研第23期産政塾／つなごうろい放射能から避難したママネット@東京／東京トヨベック／東北福祉大学／トキコ・プランニング／ナオミプロダクション／難民支援協会／ニカラグア共和国大使館／日本アイ・ビー・エム／日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団金沢キリスト教会／日本家政学会／日本経路セルフケア協会／日本光電／日本財団／日本シェアリングネイチャー協会／日本赤十字豊田看護大学／日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト／日本フィランソロピー協会／日本ボランティアコーディネーター協会／バラグアイ共和国大使館／バルンシステム連合会／東日本大震災支援全国ネットワーク／東日本大震災女性

活動地域でご協力いただいた企業・団体一覧

アイトピア商店街振興組合／阿蘇市社会福祉協議会／あ祖母学舎／荒川七衛商店／石巻魚市場／石巻観光協会／石巻観光ボランティア協会／石巻市教育委員会／石巻市小網倉浜行政区／石巻しみん市場／石巻市社会福祉協議会／石巻商工会議所／石巻市役所／石巻専修大学／石巻立町復興ふれあい商店街／石巻日新聞社／石巻まちづくりギルド／石巻まちなか復興マルシェ／いしのまきNPOセンター／イトナブ石巻／海と共につながる会／大原小学校／雄勝硯生産販売協同組合／おがつ復興市実行委員会／杜鹿中学校／女川アートギルド／女川町商工会／女川福幸丸／おらほの復興市実行委員会／キッズ・メディア・ステーション／協立塗料／廣済寺／ことぶき町商店街／コバルト観光／小松塗料／コンバクトシティいしのまき・街なか創生協議会／サルコヤ楽器／三陸河北新報社／春潮楼／松竹／スマイルみやぎ・in石巻 花と緑の力で3.11プロジェクト／住吉幼稚園／竹田市社

※物資提供やご寄付、イベントへのご協力など、個人の方からたくさんのご協力をいただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えていただきますが、お一人お一人の皆様に心より感謝を申し上げます。

正味財産増減計算書	
	単位:円
経常収益 合計	146,407,366
寄付金収入	18,491,939
助成金収入	111,807,086
自己負担金収入	7,162,306
サポート会員会費収入	1,556,000
その他収入	7,390,035
経常費用 合計	164,915,454
事業費 計	136,634,542
被災地支援事業費	104,821,367
被災地支援サポート事業費	6,006,715
ボランティア育成事業費	25,229,962
その他事業費	576,498
管理費 計	28,280,912
当期経常増減額	△18,508,088
法人税	70,000
正味財産増減額	△18,578,088
正味財産期首残高	99,027,777
正味財産期末残高	80,449,689

Japan Times／Houston Chronicle（米国）／Washington Express（米国）／その他WEBニュースなど
【雑誌】月刊ソトコ×2回／ノジュール／POCO21／その他団体会報・社報など
【ラジオ】NHKラジオ第1「ラジオあさいちばん」／ラジオJ-WAVE「LOHAS SUNDAY」／文化放送ラジオ「日曜はがんばらない」／ニッポン放送ラジオ「ザ・ボイス」／ニッポン放送ラジオ「高嶋ひでたけのあさラジオ」／全国コミュニティFM「FMフリームゲート」／Date FM ラジオ「[Café de Monk]」／FM横浜「THE BREEZ」／FM岩手、Date FM、ふくしまFM「MEET THE MUSIC with 福山雅治」／RKBラジオ「中西一清スタミナラジオ」×2回／ラジオK-MIX「Original Weekend」／THE AGE（オーストラリアラジオ）／コミュニティラジオ「3ZZZ」（オーストラリアラジオ）／その他Podcastなど

支援ネットワーク／被災地NGO協働センター／兵庫県立農業高校／福島避難母子の会in関東／富士市災害ボランティア連絡会／双葉社／ブライスウォーターハウスカーパスIAS／ペストラーチ／ベネズエラ・ボリバル共和国大使館／ベル・データ／ホンダレーディング／マッキン・ワールドグループホールディングス／マーリー・コーヒー／三井住友銀行ボランティア基金／三菱商事／武蔵小杉合同法律事務所／明治学院大学国際学部コンサート／モトローラ／モバオク／モメンタム ジャパン／モンベル／ユニリーバ／ライオン／リンベル／レノボ・ジャパン／ログの会／ワタノハスマイル／AmeriCares／Australian Conservation Foundation／Australian Nuclear Free Alliance／BCCJ（在日英国商業会議所）／BHNテレコム支援協議会／Bridge To Tohoku（British School in Tokyo）／CWS Japan／D.P.I／earth garden／Environment Centre NT／Foreign Exective Women／FoE Japan／FoE Australia／Fundación Musical Simón Bolívar／Garbatte365／Gobernación de Vargas／Hack For Japan／happyDELI／i-kifu／Japan Club of Victoria／Japanese for Peace／JEN／JFE物流／JIM-NET／John Carroll University／KIZUNA AID Project／LUSH UK／MAKE THE HEAVEN め組JAPAN／Medical Association for the Prevention of War／Ministerio de Relaciones de Venezuela／NEC／パーソナルコンピュータ／NTT東日本東京吹奏楽団／NTT労働組合中央本部／Orquesta Regional Juvenil del Estado Vargas／Peace Boat US／READYFOR?／SCSK／SGN／START／THE ATOMIC CAFE／The Global Network For Disaster Reduction of Civil Society／The Japanese American Association of New York／University of Toronto Japan Association／Vargas Estate of Venezuela／Yahoo!ボランティア／Youth for 3.11／Youth Orchestra of Los Angeles／WMA JAPAN

会福祉協議会／竹田市役所／大建／つなごうろ南相馬／遠山不動産／にじいろクレヨン／フクシマ・アクション・プロジェクト／福島県有機農業ネットワーク／福島大学災害復興研究所／船越レディース／船越作業部会／ベビースマイル石巻／巻.com／負けねど飯館!!／街づくりまんぼう／南相馬こどものつばさ／宮城県石巻地域産業振興株式会社／宮城県漁業協同組合宮城県漁業協同組合石巻市東部支所、荻浜出張所、表浜支所、蛟浦支所、泊浜支所ほや養殖部会、谷川支所種ボヤ養殖部会／みやぎ生協文化会館アイトピア／みらいサポート石巻／八幡家／ヤフー石巻復興支援ベース／山形屋／山徳平塚水産／結日丸／寄磯帆立養殖部会／寄磯ほや養殖部会／ラジオ石巻／CEIBA／Do Tankみやぎ／FTVジュニアオーケストラ／ISHINOMAKI2.0／NTT東日本石巻営業支店／OPEN JAPAN／SRA東北／We are the 大漁プロジェクト／World Cares Center

「サポート会員」になって、PBVの運営を支えてください。

東日本大震災から2年が経ち、各種基金などからの助成期間が終了しています。東北での活動、国内外の災害救援、防災・減災への取り組みなど、財政面でのプロジェクト継続とPBVの運営を支える「サポート会員」に、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【年会費】

【個人】一口 **5,000円** 【団体】一口 **100,000円**

※二口以上のご協力も可能です。

【会員特典】

- 会報誌「START」(季刊)と年次報告書をお送りします。
- 各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- 会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。



季刊誌「START」2011年度 春号、夏号

【ご協力方法】

「PBVサポート会員 申込書」をご提出、またはお電話にてご連絡いただいた上、下記まで年会費をご入金ください。

郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841 (※下6桁は右ツメ)
口座名：社)ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから
<http://pbv.or.jp/support-member/nyukin.html>

ゆうちょ銀行

ゼロイチキョウ店(019店)当座 0488841
社)ピースボート災害ボランティアセンター

その他 取引先金融機関

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

その他の募金方法に関しては、右記ホームページをご覧ください。 <http://pbv.or.jp/donate.html>

2012年度 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

編集：合田茂広、山本隆、小林深吾、岩元暁子、奥村早苗、森大樹

発行日：2013年6月26日

写真：Yoshinori Ueno, Kazushi Kataoka, Shoichi Suzuki, Masaki Takahashi

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073 E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp

URL <http://pbv.or.jp/>

助成をいただいた企業・財団一覧

AmeriCares / CWS Japan / Direct Relief International / Give2Asia / Refugees International Japan / U.S.-Japan Council / ジャパン・プラットフォーム / 日蓮宗あんのん基金 / 東日本大震災復興支援財団 / ラッシュ・ジャパン / リコー社会貢献クラブ・FreeWill

AmeriCares

CWS
JAPAN

Direct Relief
INTERNATIONAL
Healthy people. Better world. since 1985.

Give2Asia

REFUGEES INTERNATIONAL JAPAN
RIJ (国際難民支援会)

U.S.-JAPAN
COUNCIL

JAPAN
PLATFORM

立正安国・お題目結縁運動
いのちに合掌

みんなでがんばろう日本

LUSH

リコー
社会貢献
クラブ
FreeWill